

アプライズと国内物流大手2社が推進

ベトナムの大学事情に精通し、物流を学ぶベトナムの大学生をインターンシップ生として入国させ、日本企業での就労をサポートするアプライズ（岩田克英社長、東京都品川区）は1月、外国人の就労仲介業として国内初の株式上場を果たした。同社案内のもと、10月初旬、佐川急便（本村正秀社長、京都市南区）人事部の北林寿一郎と清水祐祐係長、南日本運輸倉庫（東京都中野区）の大園圭一郎社長らが、ベトナム・ハノイに渡り、物流学部がある大学3校を訪れ、学生たちに向けたプレゼンテーションを行った。

最初に訪問したフウギ技術経営大学（UTM大学）では約80人、次に訪問したトワイロイ大学では約200人、3校目の交通技術大学（UTT大学）では約120人と、プレゼンテーションには、400人を超え、物流学科の学生ら

トラックドライバーの高齢化と人手不足が刻一刻と深刻度を増すなか、特定技能制度の改正で、外国人にも門戸が開かれ、外国人ドライバーの受け入れが可能になってきた。ただ、試験実施時期など具体的なことがいまだ発表されていない状況にあり、国内の受け入れ態勢がなかなか進まない現状にある。こうしたなか、国内の物流企業が先を見据え、若手外国人材の確保に積極的に動き始めている。(小澤 裕)

(小澤 裕)

が参加した。佐川急便は清水保長が、南日本運輸倉庫は大園社長自らが登壇し、それぞれ30分以上の時間を充て、自社のPRと異体的な仕事内容について説明した。アプライズは、大學生を日本企業で就労体験させるインターンシップのサポートでも多くの実績を持つっており、ア

レゼンテーションを行なったのも、学
イロイ大管内で、生
おその保護者と佐
川急便、南日本運
倉庫との直接面談が
実施され、2社は別
室に分かれ、質問に
応じていた。

南日本運輸倉庫
外国人材の
受入れ推進
南日本運輸倉庫
は、すでにさまざま

な国から技能実習生や国内留学生のアール・バイト採用で外国人を受け入れており、ベトナムからのインターンシップ生受け入れは、今回で4回目という。今年12月には6人が来日する予定で、8月の入国者と合わせ通期で12人の在籍となる。

学生らは車内作業などで就労しながら日本の物流技術やシ



UTT大学で講演する佐川急便の清水係長

**トラックGメン改組
360人規模へ拡充**
国交省は1日、

スラムを一年間た後、いったん帰国して大学を卒業し、技術を国際業務に生かすつもりで、このようにしたい。トウイロイ大物流学部でのフロンテーション授業に、日直前の学生と保護者も、さらに渡日を希望する生ら、34人が集ま

佐川急便
将来を見据え
若い人材育成
佐川急便は今回が
初めてのプレゼン
テーションとなっ
た。ベトナムでも佐
川急便は知られてお
り、トウイロイ大学
でのプレゼン後、佐
川急便に興味を示し
た10人を超える学生

が、より詳しい説明を聞くために面談に参加した。

同社では、最終的な職種としてドライバーク職での採用を考

内タえ

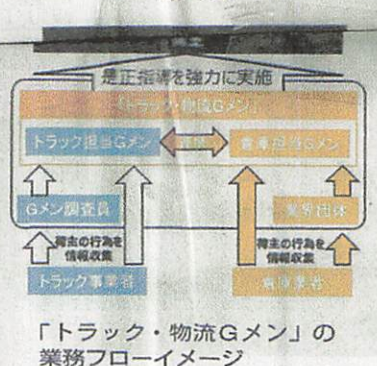


積極的な外国人材確保



トラックGメン改組 360人規模へ拡充

省交國



で、これまでに適正な取引を阻害する疑いのある荷主・元請け事業者の監視を強化し、1,000件超の是正指導を行って